

NPO法人

# 久喜の自然を愛する会

## 会報

NO. 29 2017年12月

### 会のモットー

1 足元から自然を学ぼう

2 <sup>いま</sup> 現在 ある自然を次の世代に残そう

### ★★活動の記録（写真版）★★

★ふれあいウォーク「中土手」

2017年6月25日(日)



菖蒲公園駐車場での記念撮影



ソクズ



クズ



イヌゴマ



保護地



観察風景



ヤブカンゾウ



ヌマトラノオ



タケニグサ

★ふれあいウオーク「わしのみや」 2017年9月10日(日)



野外ステージ前で記念撮影



クズ



コヒルガオ



デンジソウ



キノコ



観察風景



ツユクサ



キクモ

★ふれあいうオーク「筑波実験植物園」

2017年10月26日(木)



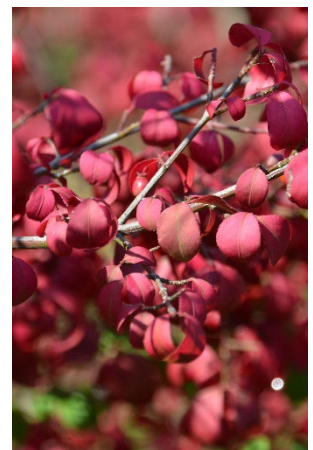
筑波実験植物園での記念撮影



お世話になった永田さん



巨大なススキ



コマユミ



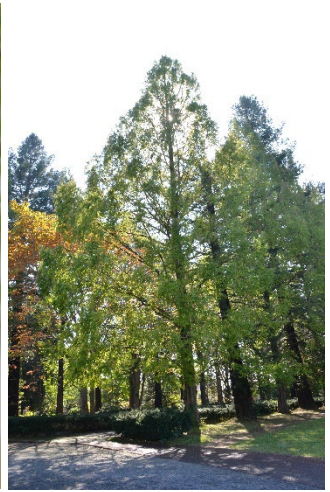
センブリ



セコイア (互生)



メタセコイア (対生)



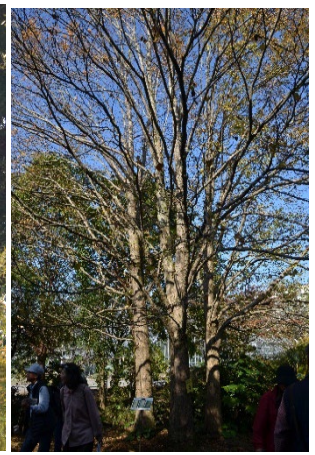
メタセコイア



ヤツデ



アオサギ



カツラの木



間宮林蔵記念館



林蔵の生家



キリンビール工場



麦汁の説明を受ける

★太田小ビオトープ再生活動

2017年6月18日



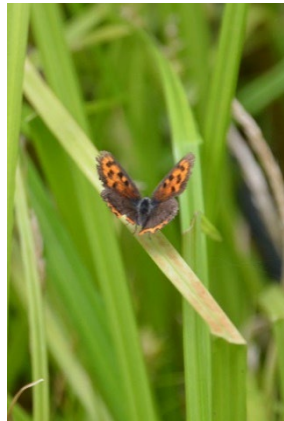
ここから水を流す



植物の移植



池にはメダカもいます



ベニシジミ



移植後の記念撮影

★野草保護活動

6月 ★ 東側 8名



★西側 8名



7月 ★ 東側 8名



★ 西側 6名



8月 ★ 東側 10名



★ 西側 6名



9月 ★ 東側 8名



★ 西側 5名



★放課後子供教室教

7月1日 本町小学校 ザリガリ釣り



9月25日 東鷲宮小学校 自然観察



7月15日 太田小学校 ザリガリ釣り



記念撮影



釣れるかな

9月30日 太田小学校 ドングリ遊び



ドングリ集め



どングりのはなし



ドングリで作った独楽まわし



ドングリで作ったストラップ

10月7日 太田小学校 自然観察



熱心に説明を受ける



植物採取



蚊帳が出来たよ



記念撮影



## デンジソウ保護活動が始まりました

デンジソウは会員ならだれでも知っている、葉の形が田の字に見える四葉のクローバーに似た野草である。大きな違いはシロツメクサの様に花は咲かず、胞子で増える点である。

埼玉県でも野生のままの自生地は、久喜市の元鷲宮の宝仙寺池の近くの田んぼに唯一か所しかない。絶滅危惧1A類であり、埼玉県の希少種として県から特別に指定されている。

そのデンジソウが絶滅の危機に晒されていると知ったのは、本会での「ふれあいウオーク鷲宮」の時だった。松本さんが現地を見て、ほとんど一面が葎に覆われて近くの道からも入れないとのことだった。

寝耳に水だった。この場所は鷲宮自然保護ボランティア会で保護活動を続けており、しっかり保護されているものだとばかり思っていたからである。

やむなく一部の葎を刈り取り、とりあえずデンジソウが見られる場所を作った。わずかな空間にもデンジソウは姿を見せた。ふれあいウオークの時はなんとか参加者にデンジソウをお見せすることが出来た。

聞くとところによると、鷲宮グループは高齢化のためここ三年間保護活動をストップしているという。この危機的状況を手紙で二度も県に訴えたのが平尾さんだった。彼女の手紙に動かされて、県のみどり自然課の動きが始まった。

10月7日(火)には県のデンジソウ調査が行われた。

当日は、県のみどり自然課八木原千恵氏、埼玉県絶滅危惧植物調査団長牧野祥吾氏、鷲宮グループの辻さん、国際科学研究センターや生き物ネット、久喜市環境課課長以下2名それに久喜の自然を愛する会から6名等全部で15名近くが集まった。保護地のデンジソウの確認を行った。



10月7日の調査



11月12日 保護活動を終えて

11月12日(日)には県職員7名、本会から10名等、総勢21名でヨシを刈り払う大規模な保護活動が行われ、300坪近い保護地のヨシはすっかり刈り払われた。

その後八木原氏の音頭で今後の保全対策会議が県庁で開かれる事になり1月16日に決まった。以上経過を報告して巻頭言に変える。

## ★★活動の記録★★ 2017年前半～2017年後半

### ★ふれあいウオーク「中土手」2017年6月25日(日) 9時30分～

松本春勇

久喜菖蒲公園駐車場に9時30分集合。昨夜から気にもんでいた雨の心配もなくなり、記念撮影を行い観察地に向かう。備前堀川に架かる橋を渡り中土手に降りる。今年も中土手は杉戸土木事務所により、きれいに刈られていた。

まず、目に付いたのがセイバンモロコシでした。穂の部分がモロコシ(蜀黍)に似ており、西方から来たのセイバン(西蕃)モロコシと名付けられた。私は、子供の頃にモロコシを食べたことがあります。セイバンモロコシの実は小さく、食べることは無理のようです。

先生の説明は次々と進みます。クズは葉が3枚で1枚の葉、マメ科の仲間。ソクズはニワトコの仲間。ドクダミは十薬とも言い、白いのは花でなく包であり、花は小さい黄色いものです。

しばらく行くと、今年もオハグロトンボを多く見る事が出来ました。しばらくして先生はヨシの葉をちぎり、葉で帆掛け船を作って見せました。私も子供の頃、よく作って遊んだものでした。

ヤブカンゾウ保護地手前の対岸で雉子を見つける。最近、あちこちで雉子を見る事が多い。会の東側保護地前の畑によく出現し、7～8メートル近くまで近づく事が出来る。雉子は立派な翼を持っているのに逃げるときは飛ばずに足で走って逃げる。しかもあまり遠くには行かず、こちらが近づくとき少し離れる。出会い頭で遭遇すると驚いて飛ぶが、20メートル程離れた所に降り、こちらを伺っている。

保護地のヤブカンゾウは昨年もそうでしたが、時期が早く、数える程しか咲いていなかった。保護地付近のたんぼの中に、今年もヌマトラノとヒメミカンソウを見る事ができた。特にヌマトラノは例年になく個体数が多かった。

保護地より、集合地に向かう。池に沿って戻る途中にネジバナ・ニワゼキショウ・タケニグサ・ヘラオオバコが咲いていた。

池のほとりの屋根のあるところで観察会の意見交換を行い、散会した。

#### 《 当日出席者の主な感想 》(文責会田)

柏木さん ヤブマオがきれい。鉢植えをする。

宮川さん イタドリ 春先に食べるとおいしい。ベニシジミはイタドリに卵を産んで成長する。ベニシジミに感謝して食べたい。

木下さん ヤブカンゾウが咲いていると思ったが、その期待感がよかった。川沿いに咲いているイヌゴマがよかった。

片山さん ジャコウアゲハの幼虫がウマノスズクサに共生していることを初めて知った。よかった。

片山さん 4月に初参加した。東鷲中での教え子です。ヒメミカンソウを見たいと思っていた。ジャコウアゲハの幼虫が見られてよかった。

平尾さん 雉が見られてよかった。葦の原には見えなかったがオオヨシキリの声、たんぼにはアオサギなどが見られた。

粉川さん 心に残ったのはユウゲショウ。家の塀のそばに欲しかった。野草は見るだけで楽しい。素晴らしい一日でした。

野本さん 歌にワレモコウがある。ワレモコウ初めて見た。感激した。

矢野さん オギとセイバンモロコシとの違いがわからなかった。今日わかった。今日はたいへん良かった。

早坂さん 吉羽で保護活動をしている。ノジトラノオがきれい。ハンゲショウ、カワラナデシコ、フジバカマ、クマツヅラが咲いています。吉羽の保護地を見て下さい。

嶋田和子さん ワルナスビを見た。感激して庭に植えた。ボツにしたが又植えたい。

嶋田実さん 中土手の保護活動をしている。ヤブカンゾウはツボミだけだったが何輪か咲いていて、ほっとした。皆さんにも見てもらってよかった。

藤浪会長 今日は梅雨空であったが、もちなおしてよかった。ヤブカンゾウは保護活動でさいている。昨年は埼玉新聞にのった。もう一つの保護地と二か所で活動している。良ければ参加して下さい。

長須顧問 皆さんが熱心なのがよかった。野草保護が野草を守ってくれている。野草観察に参加して野草を守ってください。

#### 《当日の主な野草》

ソクズ・セイバンモロコシ・オニユリ・クズ・ヒレアザミ・フルガオ・ヨウシュヤマゴボウ・ヨシ  
ヒメジョオン・ドクダミ・イヌゴマ・ヤブカンゾウ・ワレモコウ・ウマノスズクサ・ガガイモ・オギ・  
ヒメミカンソウ・ヌマトラノオ・ユウゲショウ・トウダイグサ・ツユクサ・イヌタデ・ネジバナ・ニワ  
ゼキショウ・タケニグサ・ヘラオオバコ

## ★ふれあいうオーク「わしのみや」2017年9月10日(日)9時分～

木下 悦雄

台風シーズンで当日の天候が心配されますが、やや夏の暑さがぶり返したような陽射しの下で無事開催されました。集合場所の鷲宮総合支所前の駐車場には9時前から参加者が集まってきました。今回は一般の参加者25名を加え、総勢46名となりました。初めての試みとして、参加者全員に名札を付けていただきましたが、いかがだったでしょうか？

集合時間の9時半から、藤浪会長、顧問の長須先生のご挨拶、事務方からの説明を経て、駐車場を出発。「花と緑の元気ロード」を一路、宝泉寺池に向かいました。沿道にはエノコログサやアキノエノコログサ、スズメガヤ、メヒシバ、セイバンモロコシなどイネ科の植物、アレチノギク、ヒメジョオン、ヒメムカシヨモギ、アキノノゲシなどキク科の植物、オオニシキソウ、ガガイモ、オニガヤツリ、ヤブツルアズキ、アレチマツヨイグサ・・・秋の植物がいっぱいでした。

今回の目玉のデンジソウは事前の確認で無事観察することができましたが、生育地の休耕田がすっかり葎に覆われて、デンジソウの命運も危うい状況です。デンジソウの生育地は長須先生の発見以来、地元の有志の保護活動で数年前までは息を吹き返し再生していました。しかしメンバーの高齢化と健康の問題から思うような活動ができなくなり、県や市の行政の支援も及び腰のままです。埼玉県に残った唯一の生息地の保全、早急な取組みが求められています。隣接する芝地は良く整備され、子供たちや父兄の歓声が響き、いい秋の日和りが感じられました。また、近くの用水ではオハグロトンボやアジアイトトンボのほのぼのと飛び交う、青緑色に輝く姿が見られました。

クズの立派な花やイヌキクイモ、アレチヌスビトハギの生い茂る路を通り抜けて里山に至る路傍には、カラスウリの花と実、サデクサやイシミカワ、ヘクソカズラなど蔓性の植物が観察されました。水田の縁にはホソバミソハギやチョウジソウ、キクモなどの花も咲いていました。林に入ると、ヒナタイノコヅチ、ミズヒキが咲いていましたが、薄暗い木立の中に花の咲く植物は少ないようです。

グランドゴルフ場の賑わいを過ぎて、最後はコミュニティ広場の桜の木陰にシートを敷いて座り、初参加者の感想を中心に聞くうちに、予定通りの解散となりました。

(追記) その後関係者のフォローの甲斐あって、10月に県の担当課がデンジソウの生態調査を行うことになりました。久喜市も同行するそうです。

## 《 当日出席者の主な感想 》(文責会田)

- 平尾さん 今日メインはデンジソウ9月2日の下見では葦が生えてないのではと思い草取りに来ました。葦の中にやっと見つかりました。デンジソウは県指定なので県環境課にはがきを送った。手を入れればデンジソウは戻るのでは何とかしたい。開発がされている。自然が無くなってきている。鷺宮の自然を残したい。
- 島田さん(一般) 今日を楽しみにしていた。特にデンジソウを楽しみにしていた。子供の時、山に咲いていていたのがアケビだということが今日分かりました。
- 鈴木さん(一般) この近くに生まれ育った。デンジソウは宝泉寺にあるかと思ったが田んぼにあったんですね。自然に残っていた。今日はよかった。
- 蓮見さん(一般) 10年前長須先生からデンジソウを聞いていた。先生が発見して保護活動をしてきた。今日行って見て絶滅寸前で大変と思った。これから若い人に取り組んでもらいたい。市広報にのせるよう頑張ってみる。
- 梅田さん 昭和43年生まれ43才です。こうした自然環境を残せるように頑張っていきたい。NPO法人が広がるようお願いします。
- 町田さん(一般) 野草に興味があった。戸田に住んでいて山草同好会に入っていた。広報を見て参加した。知らない野草もあり参考になった。
- 喜多さん(一般) 野草の小さな花が好きである。小さな花を中心に見た。また参加したい。
- 玉川さん(一般) いつも参加している。1月前に取った“オヒシバ”ですが何か変異している。一長須先生に“オヒシバ”を見せる一変異はあるとのことでした。
- 小林さん(一般) 1人で歩いて、この野草は何だろうと思いながら歩いていた。今日は皆さんと歩いてよかった。
- 野本さん(一般) デンジソウをはじめて見た。これを保護するのは大変と思った。手伝いたいけど腰が悪いので誰か若い人にお願いしたい。
- 長須顧問 各々願いがあって参加したと思うが充分にかなったか心配です。
- 藤浪会長 各々野草に興味関心が高いと思います。活動は13年くらいになった。もし興味関心があり、いっしょに活動していきたい人がいましたら参加ください。

## ★ふれあいウォーク「筑波実験植物園とビール工場を訪ねて」

2017年10月26日(木)

幹事 山谷信義

10月26日(木)晴天 定刻の午前8時に久喜駅東口から参加者23名を乗せてバスは一路、圏央道は幸手インターから筑波中央インターを目指します。圏央道は首都圏を通過しないで関東周辺の物流を改善する目的で造られました。構想はドンピシャリの中して大型トラックが頻繁に往来しています。ラジオの交通情報で「久喜・白岡ジャンクションは渋滞4.5km」など何回も放送を聞かされると、久喜市民としては誇りさえおぼえます。

筑波実験植物園は、国立科学博物館が植物の研究を推進するために設置した植物園です。日本の代表的な植物、世界のいろいろな環境に生育する植物が約三千種類も管理されています。

今日の園内は知的な筑波美人の永田さんに案内をしていただきました。

★セコイヤ（ヒノキ科）世界有数の高さ 100mにもなる大きな木 アメリカ西海岸に自生する。常緑針葉樹で紅葉はしません。

★メタセコイヤ（ヒノキ科）日本を含む北半球で化石として発見されるのみで絶滅した植物と考えられていたが 1945 年に中国四川省で現存していることが確認されました。高さ 25～30m 直径 1.5m になる。大きな木、秋には赤茶色に紅葉して落葉します。

★カツラ

落ち葉はマントールの成分を出しカルメラのような甘い匂いがする。今も自分の引き出しからのほのかな匂いが強い。

世界の三千種類の植物が観察できるこの植物園、新緑と花の時期、植物が元気に成長するときに改めて訪ねてみたいところでしょうか！

昼食は、大きな水車小屋と茨城の豪農の住居を移築した「蕎麦」で、もりそば、鴨汁そば、など各々お楽しみいただけましたでしょうか！

☆ 間宮林蔵記念館

21 歳で伊能忠敬の師弟の約をむすび、蝦夷地の測量をはじめ「海峡間宮」の名はじめて世界に紹介した。55 歳の頃より水戸家へ出入りする。

☆ キリンビール取手工場

一番搾りの麦汁だけで造った「一番搾りビール」は比較を体験した人はその美味しさにトリコになる。ビール工場見学は何回行っても楽しい。

帰路は筑波牛久インターから予定通り定刻の 18 時 30 分には久喜駅東口へ無事到着できました、会員の皆様のご協力有難うございました。

## ★太田小学校ビオトープ再活動状況

ビオトープ委員 柏木

従来から在った太田小ビオトープを魅力在る学習の触れ合う場所として再生しようと始められた。

2016年6月8日再生会議

メンバー

久喜の自然を愛する会代表及び理事

藤浪代表・長谷川

太田小学校

穂村校長・加藤主幹教諭

1年生の委員

8名

太田小地区コミ協

田中会長以下6名

以上の方々の協力を得て、基盤の整備から始めた結果、太陽の光が入る状態になり、ビオトープが蘇りました。

小さな丘（築山）の廻りには、水を流し水草を浮かべ、浄化作用を利用し生き物が住めるようになりました。現在ではメダカ、カエル等が住んでおります。小さな丘（築山）はササの根、トクダミ、その他の一般的な雑草を取り除き、絶滅危惧種のほか希少植物の移植を行って、大切に保護活動に取り組みました。その結果危なげなく、子供達もビオトープの中に立ち入る様になりました。

これからも、少しずつ生き物や植物を移植し、その他の創作を行い、魅力あるビオトープに作り上げて行ける様に努力いたしますので、ご協力お願いいたします。

目的：子供たちがいつでも遊びながら、メダカ、カエル等、又、野草と触れ合い、観察をしながら自然の大切さを、心から知ってもらいたい。

現在のビオトープも管理は、長谷川さんと柏木が行っています。

《 関連新聞記事 》



くき市議会だより No. 30 (平成29年8月15日)  
けやきっ子ゆうゆうプラザザリガニ釣り (7月10日)

## 29年度 「ゆうゆうプラザ」放課後子供教室での活動

6月～10月の活動記録

実施月日	学校名	会からの参加者名	参加生徒数	講座名	活動内容
6月19日 (月) 15～ 16:30	東鷲宮 小学校	(塚原)	7人	植物 観察	校庭にて、シロツメクサ・アカツメクサを採取。ピオトープにてアサザ・デンジソウ観察。オオバコと採取持参した、外来種のヘラオオバコで綱引き相撲を行った。
7月1日(土) 9～11:30	本町 小学校	3名 (会田・宮川・ 木下)	16人	ザリガニ 釣り	雨天の中での催しでしたが、生徒16名に父兄20名の参加でした。今年はザリガニの成長が遅く、ロチャース近くの用水ではザリガニの姿が無く、雨中傘をさしながら少し離れた田圃脇まで歩きました。ザリガニを釣り上げる体験が出来るか心配していましたが、全員4～5匹の釣果あり自然とのふれあいの楽しさを実感した。
7月10日(月) 15～ 16:30	東鷲宮 小学校	2名 (会田・宮川)	5人	ザリガニ 釣り	近くの田圃脇の水路へ直行釣りを開始した。間もなく「釣れた！」の声とともに父兄を含め全員釣果を手にした。自然と遊ぶ子供達の将来性に夢を感じた。
7月15日(土) 9～11:30	太田 小学校	7名 (平尾・会田・ 木下・井上・藤 浪・宮川・斉 藤)	15名	ザリガニ 釣り	生徒15人父兄10人の参加でした。校庭内に臨時的な川を作り、前日捉えてきたザリガニ放流して開始。周囲に田圃のない学校でザリガニ釣り未経験者多数でしたが、釣りを体験して頂く事が出来自然観察の遣り甲斐を感じた。
9月25日(月) 15～ 16:30	東鷲宮 小学校	3名 (塚原・会田・ 宮川・上原)	6人	自然 観察	学校のピオトープを観察し、春先には生存を心配した「デンジソウ」が繁茂している事を喜びあった。持参したアオギリ・カヤツリグサ・コセンダングサ・コナラ・クヌギ等を使い、葉っぱの不思議を勉強した。
9月30日 (土) 9:30～ 11:30	太田 小学校	3名 (斉藤・花野・ 松本)	14人	どんぐり 遊び	斉藤さんを中心に実行。吉羽公園と校庭内で木の実(マッコク・ツバキの実・ギンナン)を収穫。今年はマテバシイの木が伐採され拾い集める事が出来なかったが、持込んだマテバシイの実で独楽やストラップ作り、茹でたマテバシイを皆で食した。
10月7日(土) 9:30～ 11:30	太田 小学校	4名 (塚原・宮川・ 松本・花田)	14人	自然 観察	台風の影響あり校庭内のグランド半周し数種の野草を採集し教室へ入りました。先生が用意したカヤツリグサで蚊帳作りを、カタバミでは10円硬貨をカタバミの葉を使い磨く実験をしました。みんなで一生懸命磨き上げ古い硬貨が「ピカピカ」になる体験をし、自然の持つ不思議さ勉強しました。
10月23日(月) 15～16:30	東鷲宮 小学校	台風で休校			休講

## ★新入会員情報 (取扱注意)

羽賀道子 59-1252

中山照子 58-5505

以上2名が我々の仲間に新しく加入されました。よろしくお願いします。

現在会員数 46名

## ★今後の日程

七草採取	29年1月5日(金)	10時00分	ロジャース駐車場
七草がゆの会	29年1月6日(土)	10時00分(会員は9時)	太田集会所
野草写真展	30年3月1日~7日		久喜中央公民館

\* 今年の秋は寒暖の差が激しい日が多かった。小春日和になったかと思うと翌日は10℃も気温が下がる日が何回もあった。暖房も早くから使うようになった。12月11日、気象庁がついに、「ラニーニャ現象が発生しているとみられる」と発表した。ラニーニャ現象とはペルー沖の赤道付近の海水温が、平年よりも低くなる現象のこと。ラニーニャになると、日本は寒い冬になる。どやら2年続いた暖冬がおわり、寒い冬になりそうだ。あちこちで大雪のニュースが報じられている。寒い冬は暖房関係の商品や衣類が売れ、景気が良くなるという。期待したいものです。

NPO法人久喜の自然を愛する会会報 NO29

2017年12月発行

発行 特定非営利活動法人久喜の自然を愛する会

発行人 藤浪 康義

編集人 宮川 俊治

松本 春勇